

EIWA UNIVERSE

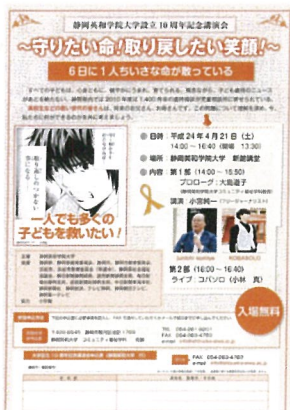
発行日 2012.7.25 第6号

開学10周年記念講演会が開催される。

ハイライト:

- 留学生センターが今年からスタート(1面)
- 新入生、学生生活への第一歩(3面)
- 学務課からのお知らせ(7,8面)

本学が4年制大学として開学してから、本年4月1日で10年を迎えたので、これを記念して新館5階講堂で4月21日土曜日午後2時より、「静岡英和学院大学創立10周年記念講演会」と題して基調講演会と記念ライブが開催された。



第1部では、「児童虐待」をテーマに取り上げ基調講演が行われました。講演に先立ちプロローグとして本学人間社会学部コミュニティ福祉学科の大島道子教授より静岡県内の近年の児童虐待に関する現状と課題について説明をしました。

大島教授は静岡県児童福祉審議会委員会長の要職を歴任され児童虐待・社会的養護について県内のオピニオンリーダーとして活躍されております。その後元埼玉新聞記者でフリージャーナリストの小宮純一さん(54)-さいたま市-が「守りたい命・取り戻したい笑顔～6日に一人ちいさな命が散っている」と題して基調講演が行われました。

講演では埼玉県内で2005年に起きた4歳女児児童虐待死事件を巡って「本当に救えなかったのか?」という観点から検証取材の内容が紹介されました。県の保健所、県庁子ども安全課、県児童相談所、市保健センター、市児童福祉課、市教育委員会などの関係行政機関が行った内部の検証会議の内容について鋭く分析しています。6枚のスライド写真を使用してこの事件で浮かび上がった問題点を子細に報告されました。最後に講演の締めくくりとして児童を虐待から守る方法として「関係行政機関の緊密な連携と迅速な対応」を強調されました。



講演終了後、講演を聴講した学生・保護者や静岡県内の児童福祉関係行政機関の職員の方々から「しつけと虐待の相違点はどこに境界線が引けるのか」、「発達障害を持っている児童と虐待との関連性は」など次々に質問が出され、第1部の当初の終了予定時間を大幅に超過し、熱心な議論が交わされました。(コミュニティ福祉学科 佐藤)



留学生センター ～スタートしました!～

本学で学ぶ外国人留学生を支援し、日本で充実した学生生活を送っていただくため、2012年4月から別館2階 B203教室に留学生センターが設置されました。

現在は、常駐職員1名、学生協力スタッフ46名(日本人11名、留学生35名 2012年7月1日現在)で運営に携わっています。

★業務は次のような内容とします。

① 情報提供・相談援助

生活、勉学、就職・進学、異文化理解・適応、入国・在留・帰国などの手続き、等々、どのような小さい質問、相談でも受け付けます。プライバシーの保護を原則とします。

② 日本人学生との交流

イベント、勉強会、交流会の企画、開催、文化祭の参加などを通して、日本人学生と交流を深め、楽しいキャンパスを目指します。

③ 地域交流、国際交流に貢献

静岡県ふじのくに親善大使の応募、御前崎市

国際交流協会主催の国際交流イベントと外国人留学生ホームステイへの参加、地域の依頼、要望に応じられるOPEN型センターを目指し、地域や国際交流に貢献を図ります。

★最近の活動

日本人学生及び各国留学生同士の交流を促進するため、5月24日に学内で「たこ焼きパーティー」を開催しました。



楽しく交流をして盛大に行うことができました。

また、7月6日に七夕の時期に合わせて日本文化を紹介し、文化の交流を目的とした「華道交流会」を行いました。(留学生センター鈴木)



目次:

学長・副学長あいさつ	2
宗教より	3
ボランティアより	3
学科ニュース(大学)	4
学科ニュース(短大)	5
キャリア支援課より	6
学務課より	7

大学は元気です

学長 武藤 元昭



3月の卒業式に続いて、4月2日に入学式を行い、新たなスタートを切ることができ、神様に感謝しております。

残念ながら、今年は昨年より新入生が若干減りました。短大部の現代コミュニケーション学科が例年より少なかったことが響いたようです。しかし、新入生諸君の元気な表情には、大いに勇気づけられております。新入生諸君には是非充実した2年間或いは4年間を送っていただきたいものです。大学も全力で応援します。

この1、2年で本学の教員、職員の顔触れが随分変わり、若い教員が増えてきました。若い教員方は、学生諸君にとっては親近感が湧くのでしょうか、教員方の周りを学生諸君が囲む図が以前より多く見られるようになりました。これは、大学にとって非常に喜ばしい現象だと思います。

日頃から、私は本学を居心地の良い大学にしたいと願い、それを口にもしてきました。それが実現しつつあるのではと思います。2年間或いは4年間というのは、長い人生から見ると瞬く間の時間です。しかし、使い方によっては長く貴重な時間となります。折角得たその時間ですから、是非有効に過ごしてもらいたいもの

です。その意味で、大学での生活は気分良く意欲的なものにならなければいけないと考えます。それによって、実り多い年月が形成されるはずだからです。

したがって、学生諸君が教員方との距離を縮め、受け身でなく自ら課題を見つけてそれを解決しようとする姿勢を見れば、大学で学ぶ甲斐が出てくるわけです。今の本学での様子に大いに期待できる所以です。

職員の顔触れもかなり変わりましたが、これもまた良い結果を齎しているように思います。新任の皆さん各々非常に意欲的で、頼もしい思いがしております。そうした空気は学生諸君や延いては地域社会にも伝わり、大学を活気づけてくれているのだと思います。

そういうわけで、今、静岡英和学院大学は非常に元気です。



私の体験から

副学長 市川 充俊



私が教師になったきっかけは恩師との出会いでした。大学で出会った素晴らしい先生がたまたま金融を研究されていたのです。もし恩師の専門が考古学であれば、いまごろはスコップ片手にどこかで土をほじくりかえしていたと思います。

大学、大学院と先生を追いかけまわしているうちに、いつの間にかこの道で生活するようになりました。自分の人生は恩師で決まったようなものです。

ひるがえって、4月にこの役職に就き、英和の先生方と話す機会が飛躍的に増えました。先生方の大学や学生に対するあつい思いを聞くにつけ、英和には素晴らしい先生がたくさんいると感じています。英和の誇るべき特色です。

恩師でもメンターでもいいです。皆さんを必要に応じてほめてくれたり批判したりしてくれる人との出会いは大切です。先生と学生の距離が近い英和の特色を大いに利用して自分の人生にチャレンジしてみてください。

先生方は「皆さんに利用されること」を期待しています。



《学生との談話風景》

新入生、チャペルで、ステューデント・リトリートで、スタート！

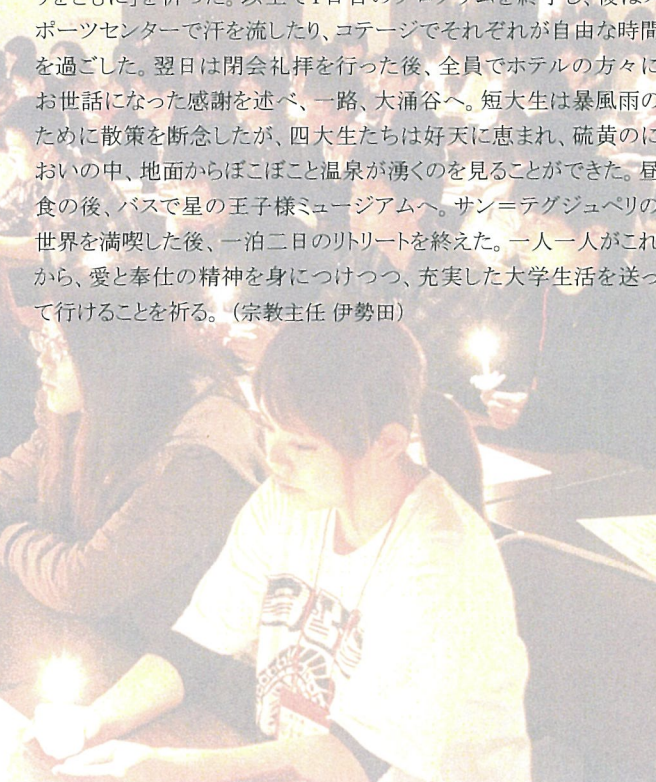


新入生が「静岡英和大学はキリスト教主義の学校なのだ」と認識する最初の機会は、チャペルとリトリートだと言えよう。英和生として生活していく中で欠かすことのできないものの1つである礼拝は週の半ばの水曜日10時半から新館5階の講堂で行われている。今年は4月3日の始業礼拝から始まり、4月17日の礼拝はイースター礼拝を行うことが出来た。今年、新しい学期が良いスタートとなりますように祈りをこめて「愛」、「恵」という文字が刻んであるイースターキャディーを礼拝出席者全員に配布した。6月半ばとなった現在、新入生たちは聖書の話を読み、オルガンに合わせて讃美歌を歌い、また「主の祈り」をそらで祈れる者もいて、静かに自分を振り返られる貴重な時間として礼拝を豊かに守っている。

新入生のリトリートは4月10日から12日まで短大、大学それぞれ一泊二日の日程で行われた。昨年は東日本大震災の直後で、予定を日帰りに変更したが、今年は、ラフォーレ修善寺にて一年生全員と引率教員が共に一泊二日を過ごすことが出来た。当日のスケジュールを振り返ってみると先ず、2時間のバス旅行のあと、桜満開のホテルに到着。研修センターに一堂会して、食前のお祈りの後、昼食を食べ、ホテルの方へ全員で元気よく「よろしくお祈いします！」の挨拶。13時30分から少しざわめいたが開会礼拝から一日目のプログラムを開始。続いて「リトリート」全体のスケジュールの説明の後、引率教員と上級生の簡単な自己紹介があり、約40分、上級生による大学生活へのアドバイスがあった。ここで少し疲れた学生達にシュークリームとお茶のおやつタイム。その後、各学科に分かれ、先生を交えてグループ討議。やっと緊張も和らいできたよ

う！この後、一同、各コテージへ。コテージは一つのマンション風だったが自由時間にどんな話をしたのかは・・・？

18時10分よりお待ちかねの夕食。全員による食事の前のお祈り、食後の「ごちそうさま」も少し、板についてきたようだった。19時から研修センターにてキャンドルサービスを行った。一人一人にキャンドルをもってもらい、皆で心を一つにして「東日本大震災を受けて祈りをともに」を祈った。以上で1日目のプログラムを終了し、後はスポーツセンターで汗を流したり、コテージでそれぞれが自由な時間を過ごした。翌日は閉会礼拝を行った後、全員でホテルの方々にお世話になった感謝を述べ、一路、大涌谷へ。短大生は暴風雨のために散策を断念したが、四大生たちは好天に恵まれ、硫黄のにおいの中、地面からぼこぼここと温泉が湧くのを見ることができた。昼食の後、バスで星の王子様ミュージアムへ。サン＝テグジュペリの世界を満喫した後、一泊二日のリトリートを終えた。一人一人がこれから、愛と奉仕の精神を身につけつつ、充実した大学生活を送って行けることを祈る。(宗教主任 伊勢田)



ボランティアセンターだより ～被災地のことを忘れないために～

東日本大震災から1年4ヶ月が過ぎました。報道を目にする機会は少なくなりましたが、被災地では今もなお多くの支援が求められています。決して忘れることなく、できることをやっていきたいものです。

大学内では、ボランティアセンター学生スタッフが毎月の募金活動を継続。支援物資を被災地のお店から購入して被災者へ届けるマッチングサイトを利用して、資金を応援しています。これまで扇風機やファンヒーター、ホットカーペットなどを贈ることができ、今後も続けていく予定です。

また、ボランティア委員会災害支援チームでは、昨年製作&販売した「復興応援Tシャツ&ポロシャツ」を今年も販売。製作費に上乗せした寄付金を支援金として送ります。

被災地活動には2回・3回と参加する学生もあり、長期休みを中心に活躍してくれています。



春休みに大学生主体のプロジェクトに参加した学生は、全国から集まった他大学の学生たちと一緒に仮設住宅でのサロン活動や子どもたちの遊び相手などで活動。こうした取り組みがとても大事だと実感し、この夏にも参加する予定です。



これからもみなさまのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い致します。(ボランティアセンター 小幡)

○マッチングサイト『復興市場』

<http://fukkoichiba.com/>

○大学生主体のプロジェクト

「いわてGINGA-NETプロジェクト」

<http://www.iwateginga.net/>

人間社会学科News ～インターンシップ体験者報告会～

人間社会学科で昨年度に就業体験(インターンシップ)を行なった学生による報告会が、5月28日(月)に行われました。この報告会は、インターンシップの意義を体験者本人が振り返るとともに、これからインターンシップを行う学生たちに体験の詳細を伝えることで、学習成果を共有しようとするものです。

人間社会学科では、開学当初からインターンシップには力を入れてきましたが、学生の進路に関する希望や、雇用環境の大きな変化に対応すべく、その内容や進め方の改善に取り組んできました。以前は大学が準備したいくつかの企業で研修するというものでしたが、現在ではその範囲を拡大し、学生が自ら開拓したものについても、一定条件を満たす研修については単位が認定されるようになりました。



今回の報告会では、5名の学生が後輩たちに向けて各自の体験を語ってくれました。金融機関、放送局といったよく知られた領域・企業はもちろん、地元の経済活動を支える中小企業での充実した体験も報告されました。キャリ

ア・コンサルタントによる進行のもと、フロアの学生は先輩たちの体験を聞き、熱心にメモをとっていました。就職活動やキャリアに対する関心とモチベーションの高さがうかがえた行事でした。



現在人間社会学科では、キャリア教育の一環として早期の個別相談を推進しています。就職活動を行う学年よりも前の時期に、「自分はどのような生き方を大切にしたいか」「そのために自分が実現しなければならないことは何か」などについて、キャリア・コンサルタントとともに考える機会を充実させようとしています。今回の報告会は、その機会のひとつとして、とても有益な行事となりました。(人間社会学科 波多野)



《個別相談風景》

コミュニティ福祉学科News

今年度、コミュニティ福祉学科では新任の見平 隆(みひらたかし)先生を迎えました。見平先生は2012年度より新設された「福祉とキリスト教」などの科目を担当しています。

地域で暮らす障害のある方を対象としたオープンカレッジ『はびねす☆EIWAカレッジ』、学生による子育て支援ひろば『あちよぼ』の活動も2年目に入り、ますます盛んです。

* はびねす☆EIWAカレッジ

6月9日に行われた『はびねす☆EIWAカレッジ』は本学の山田美代子准教授が「体験しよう!音楽レッスン♪」というテーマで講座を開き、普段あまりふれることのない楽器を使い、音楽の楽しさを再発見しました。7月14日にはRichard Woodward先生が「英語でスマイル!」と題して、英語を使って笑顔でコミュニケーションを取り合う楽しさを教えてください。9月29日には、外部講師として大野仁志先生と佐藤浩司郎先生をお迎えして絵と写真のワークショップ「笑顔をかこう!とろう!」、11月17日には観光学が専門である本学の野瀬講師が「地元の『宝さがし』をしよう



を開講します。2012年度は「暮らしを豊かに～自分の世界を広げよう～」がテーマです。これからも参加された方々と学生が学び合える場を作って行きたいと思います。

* あちよぼ

『あちよぼ』は今年度8回の開催予定です。5月28日には「みどりいろ」をテーマに、静岡の新茶や新緑をイメージカラーにして開催。人形劇「あつぷっぷ」が『おおきなかぶ』を演じて、舞台づくりなど多くのことを学ぶことができました。2回目は6月25日で「みずいろ」がテーマでした。劇団SPACの役者さんによる「SPACお話劇場」も同時開催。エコな取り組みでペットボトルの玩具をつくり、子育て相談・発達相談を教員がお受けしました。『あちよぼ』は乳幼児を対象としたあそびを学生たちが毎回企画しています。実習以外では乳幼児に接する機会の少ない学生が、この保育実践を通して学びの幅を広げ保育への理解を深めることを目指しています。



最後に昨年度の就職実績についてご報告したいと思います。就職率は97%。内訳としては、福祉専門職として就職した学生が45.8%。保育士、幼稚園教諭として就職した学生が29.2%。民間企業に就職した学生が25%となりました。(コミュ福祉科 若林)

現代コミュニケーション学科News

* キャンパス・ワークで活躍

現代コミュニケーション学科では、2011年度から「キャンパス・ワーク」という科目を設けています。これは、学生が大学主催のイベントなどにスタッフの一員として参加することを科目とし、単位化したものです。オープンキャンパス、サマーキャンパス、留学生サポートなどに積極的に参加するなかで、企画、準備、実行、反省のプロセスを体験したり、またホスピタリティの実践をしたりという効果が期待されています。今年も履修登録した学生が、元気に頑張っています。



* リトリートに参加した2年生

4月10、11日にラフォーレ修善寺で開催された短期大学のリトリートに、現代コミュニケーション学科から2年生3名が参加しました。教員のサポート役として、また新入生のお姉さん役として活躍しまし



た。2日目、あいにくの悪天候も星の王子さまミュージアムではやや治まり、楽しい体験となったことでしょう。(現コ学科 柴田)



《星の王子様ミュージアムにて》

学内探検記

- 2012年5月9日に、キャンパス内駐車場でニホンアナグマを見かけました。人に危害を加えることはないようです。以前は、動物園からクジャクも遊びに来ていました。
- さてアナグマくんは、どの授業を受けに来たのかな？



食物学科News ~最近の出来事~

* 2011年度の卒業生

今年もたくさんの、栄養士、フードスペシャリスト、フードサイエンティストが誕生しました。栄養士79名に加え、フードサイエンティストが42名、フードサイエンティストが31名という結果になりました。9割以上が就職し、それぞれの分野での活躍が期待されます。

* パネルディスカッション開催！(2012年4月4日)

本年度は、「社会の中の栄養士」と題して、4名の卒業生をお呼びしてパネルディスカッションを開催しました。いろいろな立場から、栄養士としての資格の意義、期待されることなどを語ってもらいました。本来の業務と離れたところでも、栄養士の勉学に含まれるいろいろな知識が役に立つ場面が紹介され、有意義な会となりました。



* リトリート紹介

本年度のリトリートは、4月10、11日にリゾートホテル「ラフォーレ修善寺」で行われました。先輩、友人、教員との交流やキャンドルサービスの他、温泉やスポーツなどを楽しみました。新入生も友達をたくさん作ることができ、良い学生生活をスタートできたようです。



* 伊比水産株式会社と連携協定を締結

清水区のマグロ加工会社、伊比水産(株)と静岡英和学院大学短期大学部が連携協定を結び、今後若者向けのマグロ加工品の商品開発などを行うことになりました。さっそくですが、食物学科の学生へのアンケートをもとに、「しお麹+MAGURO」「烏賊墨+MAGURO」「さやかのネギトロ プレーンタイプ」の3つの味のネギトロ製品が発売になりました。お店で見かけた際にはぜひご賞味ください。



* 学生たちによる地域での食育活動

昨年引き続き、食物学科食育ボランティアによる、学外での食育活動が行われました。第1回は、4月22日に静岡ガスエネリア静岡ショールームで行われた「育児まるごと応援フェア」で、「お家でチャレンジ！野菜のおやつ」と題して、子育て中のお母さんを対象に、簡単にヘルシーなケーキづくりと食育クイズを行いました。(食物学科 堀江)



キャリア支援課 ～幸せな人生を送るために～

本学は、現場(フィールド)や実践が、学問の学びを深め、人間形成に欠かせないものであることを熟知しています。地域福祉学科(コミュニティ福祉学科)の介護福祉施設や保育園・幼稚園等での実習及び食物学科の栄養士資格取得のための実習が、学生を日々たくましく育ててくれることを目の当たりにしているからです。

インターンシップは、学生が就労体験によって、働く現場を知り、働く意味を考える機会となるなど、実習と同じ効果を目指していますが、そればかりでなく、学生も地域の未来や繁栄を築く壮大なロマンの実現に向けた運動の一員であることの気づきも目指しています。

2011年度は、大学設立10周年、短期大学設立45年の年でしたが、本学の取り組んでいる【インターンシップ】にとっても節目の年でした。短期大学部が、文部科学省の平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」で「実践能力向上を重視した就業支援事業」のプログラムの一つとして「インターンシップ」をカリキュラムに取り入れたことで、大学は1学部2学科、短期大学部も2学科と小さな学校ですが、全学的にインターンシップが単位化されました。そして食物学科の学生17人が参加しました。また、大学では、学生のインターンシップへの興味・関心が高まり、この数年10人前後と低迷していた参加者が、28人(延べ人数31人)と大幅に増加しました。

2012年度は、前年の成果を踏まえ、壮大なロマンに一步でも近づけるように歩みを強めます。インターンシップの体験を学生から学生に伝える「インターンシップ体験者発表会」を5月28日に実施しました。6月4日には、静岡県中小企業家同友会の御支援・御協力で(株)オートベルの金指忠男社長にお越しいただき、「インターンシップの目的をしっかりと持つこと。大企業、中小企業の長所・短所を見極めたうえで自分の価値観・ポリシーを大事にした将来像を確立すること」をお話いただきました。学生からは、「インターンシップ、その先の就活に向けて、何が必要なかを知ることができた。」「会社の魅力をインターンシップを通して、自分の目で見て確かめたいと思います。」「インターンシップを通じて、将来のイメージを明確にし、考えをしっかりと持てる人になりたい。」などの意見が寄せられ、講話の内容を受け止め、8月以降に実施されるインターンシップに向けて目的意識を固め、行動を起こしています。

学生の幸せな人生づくりの挑戦に、私たちキャリア支援課は全力を尽くします。(キャリア支援課 奥村)

◆2011年度 インターンシップ先と参加者学年一覧 (キャリア支援課が支援したもの)

●人間社会学科

No.	機関・企業、法人名	学年
1	企画広報部 地域外交局 地域外交課	2年
2	くらし・環境部 県民生活課 暮らし交通安全課	3年
3	静岡県庁 静岡県教育委員会	2年
4	企画広報部 知事戦略局 広報課	2年
5	くらし・環境部・県民生活課 県民生活課 ※	2年
6	健康福祉部 富士健康福祉センター	3年
7	経済局商工部観光シティプロモーション課	2年
8	経済局商工部観光シティプロモーション課	2年
9	経営管理局行政管理部人事課	3年
10	経済局商工部産業政策課(企画担当)	3年
11	藤枝市役所 図書館	2年
12	掛川市役所 図書館	2年
13	生涯学習まちづくり課 ※	2年
14	静岡ターミナルホテル	3年
15	静岡ターミナルホテル ※	3年
16	掛川グランドホテル ※	3年
17	東横イン 富士山三島駅 ※	3年
18	東横イン 沼津駅北口正面 ※	3年
19	アニメイト	2年
20	富士宮市観光協会	2年
21	エスパルス	3年
22	静岡オンライン	3年
23	静岡銀行	3年
24	静岡新聞社・静岡放送	3年
25	花園郵便局(沼津市)	2年
26	アドライン	3年
27	JTB中部	3年
28	JTB中部	3年
29	静岡信用金庫	3年
30	静岡信用金庫	3年
31	静岡県中小企業家同友会 平尾会計税理士事務所	3年

※『静岡ターミナル』と『掛川グランドホテル』、
『静岡県庁県民生活課』と『掛川市役所生涯学習まちづくり課』、
『(株)東横イン富士山三島駅』と『沼津駅北口正面』は、同じ学生が2か所体験。

●現代コミュニケーション学科

No.	機関・企業、法人名	学年
1	静岡市生活文化局文化スポーツ部日本平動物園	2年
2	ホテルセンチュリー静岡((株)ホテル小田急静岡)	1年
3	ホテルアソシア静岡(静岡ターミナルホテル(株))	1年
4	(株)丸井グループ静岡店	1年
5	(株)丸井グループ静岡店	1年
6	イハラ観光株式会社	1年

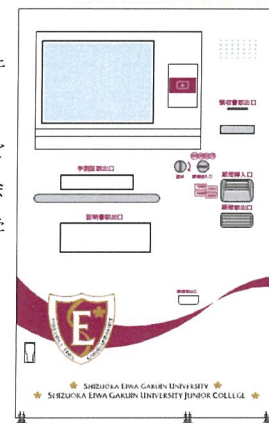
●食物学科

No.	機関・企業、法人名	学年
1	ダンテ工房店	2年
2	ダンテ工房店	2年
3	コーヒー屋ボンボン	2年
4	サンシーフーズ株式会社	2年
5	サンシーフーズ株式会社	2年
6	サンシーフーズ株式会社	2年
7	有限会社神谷製館所	2年
8	時之栖	1年
9	時之栖	1年
10	石原水産株式会社/本社①	1年
11	石原水産株式会社/本社①	1年
12	石原水産株式会社/本社②	1年
13	石原水産株式会社/本社①	1年
14	株式会社遠鉄ストア 大平台店	1年
15	有限会社神谷製館所	2年
16	特定非営利団体 ウイング・ハート	1年
17	財団法人 食品農薬品安全性評価センター	2年

証明書発行機が新しくなりました。

新館2階ホールに配置されている証明書発行機が新しくなりました。2002年の導入から10年を経過し、今回の置き換えとなりました。発行できる証明書は、在学証明書、成績証明書、卒業見込証明書、健康診断書、学割証ですが、新たに学務課やキャリア支援課で実施する各種検定試験や追再試験の受験料、外部講座の受講料、テキスト代等も手続きできる申請書機能がつきました。その他に、1) 利用者認証がICカード方式に変わり、学生証をリーダーにタッチするだけで利用できるようになりました。2) 2,000円札を含め高額紙幣対応可能となりました。

稼働時間は平日が9時～18時、土曜日が9時～12時です。発行機の利用は、在学生に限りです。また、メンテナンス等で発行機を停止することがありますので、余裕を持って利用してください。(学務課 山縣)



学生証が新しくなりました。

証明書発行機の置き換えに伴い、発行機の認証方式がこれまでの磁気カード認証からICカード認証に変わりました。そのため、新入生からICカード学生証となり、デザインも一新されました。2年生以上の在学生の学生証(磁気カード)を新発行機で認証可能な状態とするためには、学生証の裏面にICチップ内蔵シールを貼る必要があります。裏面にICシールを貼っていない方は学務課までいらしてください。万が一ICシールが剥がれた場合は、強力接着剤で貼り

直してください。ICシールを紛失した場合は学生証再発行の対象となりますので管理には十分注意してください。なお、ICカード学生証を



LuLuCaやTOICA、IC免許証等のICカードと同じケースに入れたまま重ねての使用はできません。(学務課 山縣)

緊急連絡システムが稼働しました。



昨年の東日本大震災以降、学生や教職員の安否を確認する手段を求める声が高まり、今年度から導入しました。学生の皆様にはWeb履修登録の際に、登録作業をしていただきました。4月中旬から稼働試験を行ってまいりましたが、5月22日に行われた防災訓練より本格稼働いたしました。

今後は、大地震発生時の安否確認や避難訓練だけでなく、悪天候や緊急時の休講情報の配信などにも使用していく予定です。まだ登録していない学生は必ず登録をお願いします。登録方法は学務課でお尋ねください(携帯電話のメールフィルターを使用している方は、指定受信リストに、

「ems3.e-ansin.com」を入れておいてください。)(学務課 山縣)

今年度より台風等気象状況による休講の扱いが変わりました。



警報発令の際は、以下の条件が満たされた時、所定の手続きを経てから、「休講」措置が取られます。「休講」の連絡は、緊急連絡システム、大学ホームページ(PC,携帯電話)、学内掲示板、校内放送で行われます。

暴風警報の場合…静岡県中部南に台風により「暴風」警報が発令された場合は原則として休講となります。①午前7時までに解除されれば1時限目から授業を実施、②午前7時に発令中であれば1・

2時限目休講、③午前11時までに解除されれば3時限目から授業を実施、④午前11時に発令中であれば全日休講となります。また、授業開始後に発令された場合はその時限の授業は実施し、次の時限以降を休講とします。

大雨または洪水警報の場合…静岡県中部南に「大雨」、「洪水」、「大雨洪水」警報が発令されている場合で、通学・帰宅に必要な交通機関および道路の途絶が生じた場合は休講となります。「暴風」警報の発令前や解除後も同様です。休講とする時限の範囲については、気象状況や天候回復、交通機関や道路の復旧状況を勘案して決定します。(学務課 山縣)

3月30日から学生食堂の運営業者が新しくなりました。

新館地下1階にあります学生食堂の運営業者が替わりました。メニュー、価格、衛生などに十分注意を払い、利用者の皆さんのニーズに合った、かつ栄養バランスのとれた食事を安価に提供できるよう努めています。

営業時間は、平日が10:00～16:00、土曜日は休業です。

お奨めメニューを紹介します。《ランチ》《ベジ食べる》《EIWAランチ》です。《ランチ》は、日替わりメニューです。《ベジ食べる》は、カロリーを控え、野菜を多く摂取できるので、野菜不足

の皆様には最適です。《EIWAランチ》は、毎日替わる二種類のおかずを一つのお皿に盛りつけて食べるのでボリューム感があります。この他にも、ご当地コロッケの販売や、好きな味を楽しめるシャカシャカポテトなども学生に人気です。(学務課 山縣)



今年もエコ活動！

本学は、2007年より本学院が定めた「地球温暖化防止行動計画」に基づき、毎年節電等の活動に心がけてきましたが、特に現在は、2011年3月11日に発生した東日本大震災を受け、全体としての節電等の意識と環境対応についてさらに考えるようになりました。

前年度は皆様のご理解とご協力もあり、大幅な削減をすることができました。今年度も皆様のご協力を得ながら節電の取組をしていきたいと思っておりますので、よろしくお祈りします。

また昨年に引き続きゴーヤとアサガオを使つてのグリー

ンカーテンを5月より作りはじめました。昨年の経験を活かし苗の数や間隔を考え育成中です。また今年は新たにヘチマを追加しました。日々の成長に喜びを感じています。今年もたくさん実りますように。(総務課 坂本)



《2012.6.18撮影》

後援会News ～清水エスパルスホームゲームにてイベントブース出展～

2012年6月9日(土)2012Jリーグヤマザキナビスコカップ予選リーグ第6節大宮アルディージャ戦にて大学イベントブースの出展をしました。

女子フットサルサークルの学生と一緒にエスパルスのモチーフカラーとなるオレンジを主に、ブルーなどを交えたネイルを無料で実施しました。当日はあいにくの雨でしたが、小さい子どもから大人の方まで来場していただき、

イベントブース内はサッカーの話や、子ども達の笑顔で溢れていました。また、先着で静岡英和学院大学オリジナルクッキーの配布も行い、盛況に終わりました。(総務課 松浦)



静岡英和学院大学
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY

〒422-8545

静岡市駿河区池田1769

TEL 054-261-9201

FAX 054-263-4763



静岡英和学院大学短期大学部
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

<http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>

info@shizuoka-eiwa.ac.jp

企画・編集 学報委員会